

## 伊達の城と熊本城 一戦国期の城から近世城郭へ

熊本城調査研究センター 須貝慎吾

はじめに

- 伊達政宗(1567～1637) ※慶長6年(1601)仙台城築城
- 加藤清正(1562～1611) ※慶長4年(1599)熊本城築城  
⇒両者は6歳しか変わらず、戦国期と近世期の両時代を生き、近世城郭を築いた。
- 戦国期の城から近世城郭へ戦国大名の城はどのように変化するのか  
⇒移行期(天正期～慶長期)の約20年間で大きく変化  
⇒伊達政宗の動向から居城の変遷をみていく、熊本城との共通点?  
(※大名が近世へ移行する間の様々な背景・社会的要因…)

### 1. 戦国期の居城

天正12年(1584)伊達政宗が伊達家の家督を相続

・伊達氏の居城「米沢城」

→室町時代より続く土塁だけの方形単郭の城。

→家臣は城下におらず、周辺領地に独自に拠点を構える。(仙台市内だけでも70以上の城跡)

⇒戦国大名の領主連合的な家臣団を構築(葛西氏・国分氏…etc)

○戦国期の城とは?

Ex)越後上杉氏の村上城「越後国瀬波郡絵図」<sup>1</sup>

→掘建柱の建物・小規模な城下町・武士と商人が混合・要害(戦時)と居館(平時)の関係

⇒臨時的に構築できる砦のような城に小規模な屋敷・城下町が付属

### 2. 「惣構」を持つ居城に変化

天正17年(1589)蘆名氏滅亡後、南奥羽を支配

・政宗の新城構想「館山城」

→館山城再普請と「惣構」を伴う城下町整備「伊達天正日記」<sup>2</sup>

天正19年(1591)加藤清正が肥後半国時代の「隈本城」

→隈本城下で「そうかまへのへい」(惣構の堀)普請を家臣に指示「高林兵衛文書」<sup>3</sup>

○「惣構」とは?

・中世から近世へ移行する時期の城郭の特徴の一つ

→家臣・領民らの住居を城下に集め、城壁(土塁・堀)で囲い込む

・戦国大名が城下に家臣・領民を集める要因

① 領内に散らばる家臣を集住させて結束を高める(領土拡大への対応)

② 商業の一極集中化(商業の振興)

⇒概ねこの2つの観点から大名の拠点城郭に「惣構」が築かれる。

○「惣構」の実態

Ex)天正18年(1590)豊臣秀吉による北条征伐時で、北条方の鉢形城主北条氏邦より町人(領民)に対し発給された掟書「福田氏文書」<sup>4</sup>

→「惣構」から出る際は、ほら貝を町人に持参させることを定め、ほら貝が聞こえたら「出家(老人)、わらんべ(子供)も城内に駆けること」臨戦下の「惣構」は純粋に城下の人を戦火から守る役割  
⇒城下の人々の命を守るのも戦国領主の使命。

### 3. 仙台城築城への契機

天正19年(1591)の奥州仕置後、岩出山城に移る

文禄2年(1594)朝鮮出兵に参戦。政宗が母に宛てた手紙「伊達家文書」<sup>5</sup>

→「いしかき(石垣)の普請仕候…かみしゆ(上方衆)にそつともおとり(少しも劣り)不申」とあり、政宗が朝鮮(金海竹島)で石垣普請を行う

慶長3年(1598)京の聚楽第にある家中屋敷で家族と住み、「伏見城」普請にも参加

→聚楽第・京の御殿建築・桃山文化に触れる。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦い

→家康から「百万石の御墨付」<sup>6</sup>と仙台城築城を条件に東軍側として参戦。

⇒翌年慶長6年(1601)仙台62万石が確定し、仙台城築城へ

### 4. 仙台城

慶長6年(1601)正月11日、仙台城普請の「鍬始め」を実施「真山記」<sup>7</sup>

→築城途中の本丸に入城(上杉氏との臨戦態勢)

#### Ⅲ期にわたる本丸石垣

→Ⅰ期石垣・Ⅱ期石垣は野面積みの石垣であり、政宗期に構築

・寛文8年(1668)10月4日、震災後に石垣の普請窺を幕府に提出「伊達家文書」<sup>8</sup>

→現在確認できるⅢ期石垣が築かれる。

#### 本丸大広間

元禄年間(1688~1704)仙台藩大工棟梁千田家に伝来「仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図」<sup>9</sup>

→仙台城で最も規模が大きい御殿建築の建造物

→藩主の座する「上段の間」の北には、天皇・将軍家を迎え入れる「上々段の間」

慶長16年(1611)スペイン宣教師ルイス・ソテロやイスパニアの使節ビスカイノ来訪『伊達政宗遣使録』

→謁見の場に使用され、使節団よりガラス器3個・パン数个献上される。

#### 懸造

元禄年間(1688~1704)仙台藩大工棟梁千田家に伝来「仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図」

→崖にせり出した数寄屋風書院造の建築で、城下から望める象徴的な建造物

#### 造酒屋敷

慶長13年(1608)大和国(奈良県)より酒造職人を呼び寄せる。

→苗字「榎森氏」と城内に屋敷「造酒屋敷」が与えられる「大泉多七氏所蔵文書」<sup>10</sup>

→慶長期に政宗から「くらをもつくらせ、たうぐまでそうさ(蔵も作らせ、道具まで用意)」と手厚い待

遇を受ける「伊達政宗文書」<sup>11</sup>

→造酒屋敷内で造られる酒は約 20 種類以上『伊達家史叢談』

・造酒屋敷で消費される酒の実態は？

→政宗が榎森氏に出した注文指示に「みかわさま御やしきへ、一月=仁斗四升づつ」と息子の伊達宗泰ら  
屋敷に 2 斗 4 升（約 25.20）の量の酒を送るように指示「大泉多七氏所蔵文書」<sup>12</sup>

⇒政宗の酒好きから、酒蔵を持つ城郭に

## 5. 仙台城下町

① 二つの幹線道路を中心にした城下整備

→南北の奥州街道と東西の仙台城大手道に商業の中心を据える

②階層的な住み分け、大規模な都市を目指す区割り

・町人（大町・国分町…など）

→「町」を付ける

・武士（名掛丁・東 1 番丁…など）

→「丁」を付ける

⇒それぞれ共同体を持ち、山に囲まれない東側には足軽丁が配置される。

## 6. 移行期における城郭の変化（伊達の城と熊本城）

**戦国期【～天正 17 年（1589）】** 米沢城

：城（土造り・掘建建物）

：城下（小規模な城下・武士・商人の混在）

**中近世移行期【天正 17 年（1589）～慶長 6 年（1601）】** 舘山城、岩出山城 《隈本城》

：惣構を持つ大規模城下

**近世期【慶長 6 年（1601）～】** 仙台城 《熊本城》

：城（高石垣・礎石建物・御殿建築）

：城下（街道中心の街区・階層差・業種別を意識した区画整備）

### まとめ

- 戦国期伊達氏の城は、土造りの城郭が主流であったが、近世期の仙台城で初めて石垣が採用され、御殿建築など文化面をより重視した城郭へ変化。
- 伊達政宗は東北大名として、天下の動向に合わせ段階的に近世城郭へ変化。それに併せ伊達氏の領土拡大・家臣・領民の拡充に伴う結果的要因も連動。
- 移行期の城に付随する「惣構」は伊達氏の居城と加藤清正が肥後半国を与えられた時期に築いた隈本城と共通

引用資料 注

- 1 「越後国瀬波郡絵図」(米沢市上杉博物館蔵)
- 2 「伊達天正日記一」No.2073・103・12・1(東京大学史料編纂所蔵史料 謄写本)
- 3 「高林兵衛文書」No.70(新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史第 3 卷 近世 I』)
- 4 「福田壽郎氏所蔵文書」No.2543(杉山博・下山治久編『戦国遺文 後北条氏編 第 5 卷』)
- 5 「伊達家文書二」No.650(東京大学史料編纂所編『大日本古文書』)
- 6 「徳川家康領知覚書」(仙台市博物館蔵)
- 7 「真山記 九」(仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編 7 城館』)
- 8 「伊達家文書」No.78(仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編 7 城館』)
- 9 「仙台市博物館蔵千田家史料」(仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編 7 城館』)
- 10 「大泉多七氏所蔵文書」No.635(仙台市史編さん委員会編『仙台市史第 9 卷 資料編 2』)
- 11 「巨文書」No.1817(仙台市史編さん委員会編『伊達政宗文書 2 資料編 11』)
- 12 「大泉多七氏所蔵文書」No.3717(仙台市史編さん委員会編『伊達政宗文書 4 資料編 13』)



仙台城の範囲

「肯山公造制城郭木写之略図」宮城県立図書館蔵